

安定生産を実現する効率的な農業の構築

～未来ある幸福農業を目指そう！～

十勝農業改良普及センター十勝北部支所 地域第二係

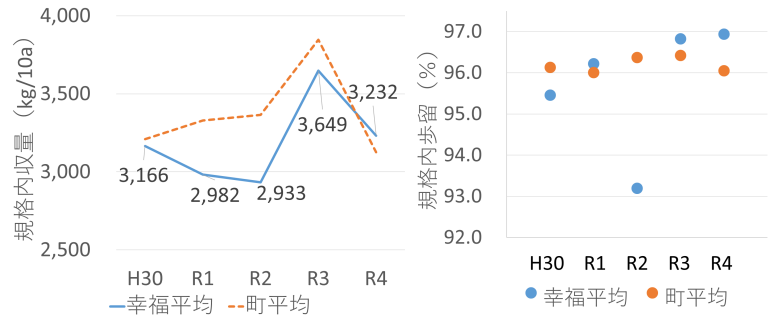
1 活動対象及び概要

上士幌町幸福地域(対象:6戸)

- ・畑作物収量は町平均～やや高い
- ・しかし、加工用ばれいしょの収量は町平均を下回る

町内でも作付面積の多い「きたひめ」の収量向上を目指す！

2 背景・ねらい



きたひめの規格内収量・歩留まりの推移 (JA 実績)

3 活動の経過

具体的推進事項	ばれいしょの適正茎数 (12本/m ²) 確保農家戸数 現況 1戸 → 目標 2戸 → 実績 4戸 (200%)
畑作物の安定生産技術の改善	適切な土壌採取時期による施肥対応農家戸数 現況 1戸 → 目標 3戸 → 実績 2戸 (67%)

① ばれいしょの適正茎数 (12本/m²) 確保に向けた取組

R4までの経過

- ・種いも管理:
育芽中の温度差・芽のばらつきが判明!
- ・覆土培土深が深いところで萌芽遅延・不良の発生!
- ・枯凋期の時期が高収量地域よりも早い!

判明

R5年の活動

- ・種いも管理変更の効果検証
- ・覆土培土深、株間、萌芽率、収量調査を実施
- ・茎葉枯凋期、収量調査の実施(高収量地域との比較)

種いも管理の改善

農業者	R4		R5実施
	結果	提案	
A	詰め替え無し 温度差大	上下の温度差を縮める	省力化・温度差軽減のため フレコン管理(倉庫内)
B	—	R4のA～Dの取り組み周知	同左
C	温度差少◎	継続 可能であれば陽に当てる	継続
D	やや温度不足	ハウスを閉め温度確保	ハウスを閉め温度確保



② 適切な土壌採取時期による施肥提案

R4までの経過

- ・土壌分析を未活用
- ・適正な時期の採取でない(前作栽培中)

判明

R5年の活動

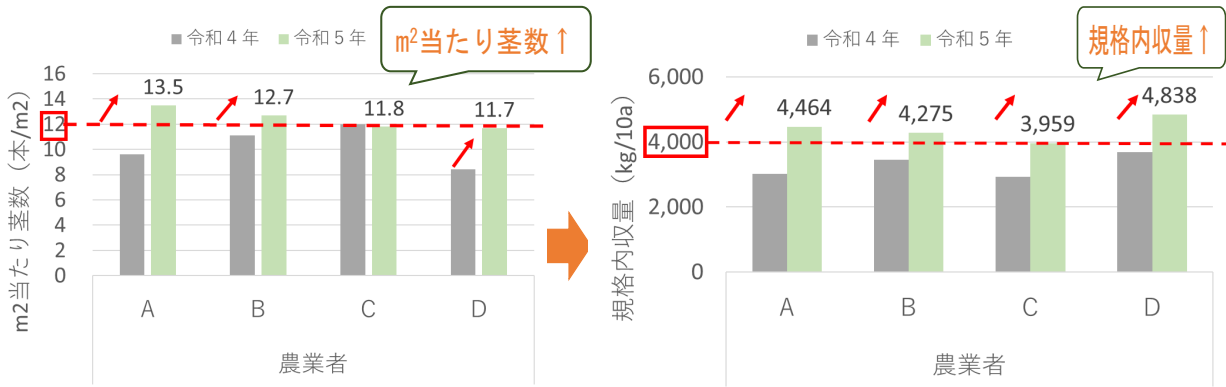
- ・土壌採取時期の分析値の差を分析・提示
- ・分析値に基づいた施肥設計・提案

4 活動の成果

① ばれいしょの適正茎数 (12本/m²) 確保に向けた取組

ばれいしょの適正茎数 (12本/m²) 確保農家戸数
現況 1戸 → 目標 2戸 → 実績 4戸 (200%)

種いも管理の改善点、植付時速度に留意など農業者に提案
栽植株数の向上によりm²当たり茎数の確保を達成



②適切な土壌採取時期による施肥提案

適切な土壌採取時期による施肥対応農家戸数
 現況1戸→目標3戸→実績2戸 (67%)

・土壌診断(前作考慮、熱水抽出性窒素)に基づく「きたひめ」の増収効果を確認

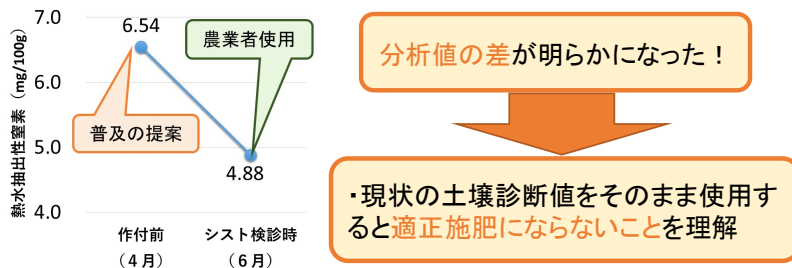
	熱水抽出性窒素(A) mg/100g	(A)に対応した窒素量(B) kg/10a	規格内			価格差 (C) 円	経費 (D) 円	差額 (C-D) 円
			収量 kg/10a	比 %	でん粉価 %			
R4	4.5	慣行 8	2,581	-	15.5	-	-	-
		実証 10	2,833	110	14.4	6,066	588	5,478
R5	4.1	慣行 8	3,690	-	13.8	-	-	-
		実証 12	3,866	105	13.4	9,398	726	8,672

※(B)は基肥+追肥の合計窒素施肥量
 ※(C)実証区と慣行区の規格内収量差から試算
 ※(D)実証区の増肥にかかる肥料費・燃料費・労働費(試算)



聞き取り

・シスト検診時の土壌(農業者が施肥設計に使用)と植付前採取の分析値の差を明らかに



重点懇談会

・分析値(4月採取)に基づいた施肥設計案の提案

農業者	令和6年作付予定作物	農業者の要望	提案事項		提案→実施有無※1
			コスト低減	早期枯凋対策	
A	豆類(小豆または金時)	施肥コスト低減	○	-	○
B	豆類・菜草	特になし	-	-	△
C	ばれいしょ	早期枯凋対策	○	○	◎
D	ばれいしょ	施肥コスト低減 早期枯凋対策	○	○	○
E	ばれいしょ(でん粉用)	施肥コスト低減 収量向上	○	○	◎
	大豆		○	-	



施肥提案

5 今後の対応

- ①「きたひめ」の収量向上に向けた改善事項の継続と収量性(阻害要因含む)を調査する。
- ②施肥対応の効果(コスト低減、ばれいしょの早期枯凋)を検証する。